

# テニス専門部の競技力向上について

テニス専門部 阿部 守 (川口北高等学校)

## 1. はじめに

全国高体連の「加盟登録状況(H26)」によると、高校部活動でテニスをしている生徒数は次のようになる。男子はサッカー・バスケットボール・陸上に続いて4番目に多く約6.8万人、女子はバスケットボール・バレーボール・バドミントン・陸上の次に多く約3.8万人である。男女合計の部員数は約10.6万人となり、サッカー17.3万、バスケットボール16.0万、陸上10.9万に次いで多い。2014年は錦織圭選手の活躍が多数メディアに取り上げられ、テニスについて更に興味関心が強まった年と言え、来年度以降の部員数増加が見込まれる。また2015年6月には、関東高校テニス大会が埼玉県狭山市の智光山公園で開催される。テニス専門部として、普及・強化等にさらなる継続性を持たせ、「テニス王国 埼玉」の構築に向けて委員長以下一丸となって取り組んでいる。

## 2. 埼玉県高体連テニス専門部の組織について

他専門部と同様、専門部長、顧問(歴代委員長)、委員長、副委員長、各地区委員長、事務局、研究部で組織されている。また、県テニス協会の組織に「ジュニア委員会」があり、高体連としても連携している。前回の関東大会などの運営をもとに、埼玉国体・埼玉インターハイを経て次のような組織が確立し、それぞれが連携を図っている。それは「競技進行部・審判部・強化部・庶務部・記録部・会計部・WEB部」であり、それぞれ部長(副部長)、東西南北支部の代表者から構成されている。この中で「審判部」の充実が、来年度の関東大会開催には特に重要である。高体連のテニス競技の試合では、関東・全国大会でも全て生徒が審判を務めるからである。選抜された1年生を中心に、来年度に向けて研修に励んでいるところである。また、顧問も「公認審判員」の資格を取得するなど、研鑽に励んでいる。

## 3. 全国大会での埼玉県選手実績(団体ベスト4以上、個人準優勝以上)

2007 H19	IH 男子団体3位(浦和学院)、 IH 男子D 優勝(秀明栄光)
2008 H20	IH 埼玉開催 全国選抜男子団体準優勝(秀明栄光)
2009 H21	IH 男子団体 <b>優勝</b> (秀明栄光)、 国民体育大会少年男子団体準優勝
2010 H22	IH 男子団体3位(秀明栄光)、 国民体育大会少年男子団体3位
2011 H23	
2012 H24	全国選抜男子団体3位(秀明栄光)・男子S <b>優勝</b> (秀明栄光)
2013 H25	IH 男子団体3位(秀明栄光)

関東大会・関東選抜大会では、団体戦や個人戦で優勝するなどの実績を積み重ねている。男子は秀明栄光・川越東・浦和学院、女子は浦和学院・山村学園・秀明栄光などの学校が関東強豪校・全国常連校として名を連ねる。

## 4. テニス協会の組織などについて

(財)日本テニス協会(JTA)は、国際テニス連盟やアジアテニス連盟に属し、日本体育協会やJOCと密接な関係を持つ団体である。関東など9地域テニス協会をはじめ、都道府県や市町村などの地方自治体協会がJTAを構成する直属のメンバーである。参加団体には、中体連や全国高等専門学校体育協会、全日本学生連盟などがあり、高体連も参加団体の一つである。他にも(社)日本プロテニス協会や(社)日本テニス事業協会などの関連団体が多数あり、連携を保ちながら普及活動や強化にあたり、日々最新の情報をそれぞれが共有できるようになっている。埼玉県高体連テニス専門部としては、特に県テニス協会や中体連テニス専門部と連携を図っている。

## 5、テニスにおける競技力向上について

インターネットや書籍などで情報がたくさん入手できる時代だ。海外の有名テニスクラブの指導法なども調べられ、ラケット等の用具の進歩と同様、そのスキルは日進月歩である。その中で、「新版テニス指導教本」（日本テニス協会編・大修館書店）は一読を勧めたい。「公認上級指導員」取得時の教科書にもなっている。テニス界の課題の1つは、早い時期からテニス競技に興味を持たせたいことと、そのまま継続させたいことだ。日本では民間テニスクラブ中心でジュニアの指導をすることが多い現状から、野球やサッカーなどに比べて敷居が高い場面もある。また、中学校部活動ではソフトテニス部が圧倒的に多く、小学生で始めた選手にブランクがしやすい。そこで、テニス協会として「Play and Stay」という取り組みを国際的規模で行っている。すなわち、ボールやコート of 広さなどを国際ルールで統一し、幼児や小学生低学年でも無理なくテニスの面白さを味わわせようとするプログラムである。「Stay」では、中体連でのテニス専門部の充実も期待される。指導者を増やし、テニスがいつでもどこでも楽しめる環境を作ることが求められている。

## 6、高体連テニス専門部の強化・普及活動について

他競技と同様、優秀選手の他県流出に悩まされる一方、流入選手も多いことがテニス専門部の特徴であると言えるかもしれない。学校毎でもテニスショップやメーカーを通じてプロコーチの指導を受けたり、ジュニアや県外の大会に参加したりしている。合同合宿や合同練習会、合同練習試合、私学大会や国公立大会に参加する学校も多い。高体連としては、普及・強化・審判技術・指導者講習等、様々な取り組みを行っている。テニス協会と連携し審判技術講習会とセットで他県の高校や大学生と試合をする機会を作ったり、中高連携強化練習会を開催したり、プロコーチを招いて初心者技術指導講習会を実施したりしている。

行 事	参加者 ・ 内容等	主な連携先
他県招待試合	他県高校チーム・大学体育会 審判技術の向上も	埼玉県テニス協会
初心者講習会	高校からテニスを始めた1年生対象	テニスメーカーなど
中高強化練習会	中体連・高体連選抜選手による練習会	中体連
コバトンカップ	予選を経て次年度関東大会 関東地区選抜団体戦	関東地区の高校等
私学大会	県内の私学中心に実施、全国大会への広がり	県内私立高校
国公立高校大会	県内の公立高校で実施、関東大会への予選を兼ねる	県内国公立高校
指導者講習会	顧問に向けた技術・ルール等の確認	埼玉県テニス協会など
三県合同強化練習会	群馬・栃木との合同練習会 各県上位選手	群馬・栃木高体連

## 7、おわりに

近年、ジュニア経験者が増え、高校から競技を始めた選手が県大会以上で活躍することはなかなか難しくなっている。しかし、部活動としてテニスを指導する以上「人間力の養成」こそを最重点事項としよう、という委員長の号令のもと、各顧問が協力しながら頑張っている。すなわち、学校内でリーダーシップを発揮できる人材、勉強や学校行事と両立できる人柄、礼儀マナーのわかる選手、コミュニケーション能力があり自己解決力を持った生徒、の育成を目標とするものだ。テニスはとてもメンタルな競技である。人間力を高めることが、必ず競技力を高めることに通じると考え、これがピラミッドの頂を更に押し上げていくものと専門部として信じている。テニス強豪県から、「テニス王国」構築に向けて、来年度の関東開催も良い機会としていく。